

低濃度 PCB 汚染物の焼却実証試験（第3回）結果公表



環境省は、本年9月に全国3か所の施設の協力を得て実施していた、低濃度 PCB 汚染物の焼却実証試験の結果を11月20日に公表しました。

PCB を含有していないと思われていた変圧器(トランス)等の中に、実際には低濃度ではあるが PCB に汚染された絶縁油を含むケースが多数あることが判明したため、これらの低濃度 PCB 汚染物の処理体制の整備が課題となっています。

そこでその整備に向け、850℃以上の高温、2秒以上の滞留で焼却できる既存の産業廃棄物処理施設等において、低濃度 PCB 汚染物が安全かつ確実に処理できることを確認することを目的として、今回の実証試験を実施しました。

具体的には、平成19年9月に数十 ppm 程度の PCB 含有絶縁油を焼却し、排ガス中の PCB 濃度を分析し確認を取ったものです。

実証試験結果については、排ガス中の PCB、ダイオキシン類濃度がいずれの施設でも関係法令に定められている基準値を下回ったことが確認されたほか、試験試料投入の有無にかかわらず濃度に顕著な変化がなかったことから、低濃度 PCB 含有絶縁油の投入による排ガス中濃度への影響はないとされました。

また、施設の敷地境界における大気中の PCB 濃度、施設の周辺における大気中のダイオキシン類濃度においても、関係法令に定める基準値よりも低いことが確認されました。

今後の予定として、協力が得られる他の施設においても、焼却実証試験を実施していくとしています。

当社では、絶縁油中の PCB 分析について、多くのお客様からご依頼いただき、多検体、短納期の体制で行っておりますので、是非お任せ下さい。

資料 2007年11月20日付 環境省報道発表資料

クロマト分析箇所 南須原丈士